

さまざまな風水害に備えよう

風水害は地震と比べると、**事前にある程度発生や経過が予測しやすい災害**です。防災気象情報などに注意して減災に努めましょう。

集中豪雨

同じ場所で数時間にわたり、集中的に強く降る雨を**集中豪雨**といいます。気象庁では雨量に応じて情報を提供し、注意報や警報などを発表しています。

集中豪雨の危険を知ろう

- がけ崩れなどの土砂災害が突然発生し、住宅などが押しつぶされ、命が奪われる危険性がある。
- 近年、下水道の雨水排水処理能力を超える集中豪雨が頻発し、道路の冠水や住宅の浸水の危険性がある。
- 河川の水位が、短時間で急激に上昇するため、避難が間に合わない危険性がある。



線状降水帯に要注意!

発達した雨雲(積乱雲)が次々と列をなし、同じ場所を通過または停滞することでつくり出される線状に伸びる雨域を「**線状降水帯**」といいます。雨雲が消滅せず、長時間にわたり大雨を降らせるため、浸水や土砂災害などを招きやすくなります。

線状降水帯が予測されたときは半日程度前から注意を呼びかける情報が気象庁から発表されます。また、線状降水帯が発生した場合は「**顕著な大雨に関する気象情報**」が発表されるので、避難行動などに活かしましょう。

土砂災害 後掲・ハザードマップ P21～P30参照

土砂災害は、「**がけ崩れ**」「**地すべり**」「**土石流**」の3種類があります。大雨や地震をきっかけとして、急傾斜地などで突発的に発生し、一瞬にして住宅をのみ込み、命を奪う被害をもたらします。

土砂災害の危険がある区域については、都道府県が土砂災害防止法にもとづき、「土砂災害警戒区域」(イエローゾーン)や「土砂災害特別警戒区域」(レッドゾーン)に指定しています。

土砂災害に関する防災気象情報に注意して、土砂災害の発生が高まった場合には、直ちに「**立ち退き避難**」を行い、命を守る行動が必要です。



土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合、住民の生命・身体に危害が生じるおそれがある区域。

土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合、建築物が壊れて住民の生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある区域。住宅・宅地分譲などの開発を許可制にするなど規制を行っている地域。

高潮 後掲・ハザードマップ P39～P48参照

高潮は台風や発達した低気圧が原因で発生し、気圧の低下による「**吸い上げ効果**」や「**吹き寄せ効果**」によって海面が上昇する現象です。海水が堤防を超えると一気に浸水します。また、強風による高波が加わると、さらに浸水の危険が増します。台風情報や高潮関連情報に注意して、早めに避難することが大切です。

